

平成 29 年度「津波防災シンポジウム」で基調講演しました(2017/05/26)

テーマ：震災伝承、コミュニティ形成
場所：名取市文化会館 中ホール（宮城県名取市）

5月26日（金）に、宮城県名取市において「平成 29 年度 津波防災シンポジウム ～新たなコミュニティで生かされる震災伝承とは～」（主催：宮城県・名取市，企画：宮城県土木部防災砂防課）が開催されました。毎年5月は宮城県では「みやぎ津波防災月間」になっており，毎年，宮城県主催の同シンポジウムを開催されています。

今年のシンポジウムでは，当研究所の佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）が，「震災伝承のあの日まで・あの日から・これから」と題して，基調講演を行いました。講演においては，東日本大震災の発生前にあった震災伝承とそれが犠牲者の発生・抑制にどれだけ影響を及ぼしたのかについて（あの日まで），東日本大震災が発生してから宮城県内で行われている震災伝承について（あの日から），今後の震災伝承の動向について（これから）について講演を行いました。佐藤翔輔助教は，平成 26 年度のシンポジウム（2014 年）でも基調講演を行っており（<https://www.pref.miyagi.jp/site/0311densyogensaip/dobokubu-tsunami-h260517.html>），今回で2回目の登壇となります。

このほか，八森伸教頭（閑上中学校）から「大震災で起こったこと」，格井直光氏（閑上復興だより編集長）から「もう一度心をひとつに，故郷閑上」という題目で情報提供がありました。

これまでは土日で開催されていましたが，今年度は始めて平日（金曜日）に開催されました。平日の開催にも関わらず，約 300 名の方が来場され，開催史上 2 番目に参加者が多い回となりました。



佐藤翔輔助教



会場の様子

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門）